

観光産業活性化、「交通」などの改善がカギ

ベトナムの観光産業をみると、近年、国内外からの旅行者数、その支出額は共に堅調な伸びを記録している。

国内旅行者数（延べ）は、2014年から2015年にかけて文化スポーツ観光省の行った国内観光促進プログラムが功を奏してか、2015年に5,700万人、前年比1.48倍と劇的な増加を見せた。外国人旅行者数（延べ）も、2015年には790万人で、2005年と比べると2倍超となり、国内旅行者数程ではないが堅実に増加している。ちなみに、外国人旅行者数の内、半数近くは中国を始めとしたアジア諸国が占めている（中国22.4%、韓国14.0%、日本8.5%、ベトナム統計総局）。

国内・外国人旅行者全体の総支出額は、成長率にはやや鈍化傾向が見られるものの、2005年より一貫して増加しており、2005年の30兆ドンから2014年には230兆ドンと、実に8倍近くにまでなった（ベトナム観光総局）。支出の内訳では、国内・外国人旅行者ともに滞在中の1日の出費の半分近くを宿泊費、食事代に費やしており、観光、エンターテインメント、ショッピングが占める割合は合わせて、全体の4分の1程だった。

外国人旅行者1人当たりが1日に費やす平均滞在費は、2013年の調査で95.8ドルであり、国内旅行者の約1.8倍であった。2015年には国内旅行者数を飛躍的に伸ばすことに成功したわけだが、1人当たりの平均滞在費を考えると、外国人旅行者を同様に大きく増やしていくことが、ベトナム観光産業を発展させる上で重要になってくる。

そこで外国人旅行者の満足度を見てみよう。外国人旅行者に対するアンケート調査では、ベトナムに対する良い印象として、最も多く挙げた項目は景観で、7割近くにまで達した。同じく約4割が「ベトナム人の態度」や「おもてなし」に対して好印象を抱いている一方で、悪い印象として、約4割が「交通の安全性」、約3割が「しつこい客引き」、「商品やサービスにおける詐欺」をそれぞれ挙げている。旅行前の情報収集手段としては、4割以上が「友人、身内」、「インターネット」をそれぞれ挙げている一方で、「旅行業者」や「新聞、雑誌などのメディア」はそれぞれ2割ほどに留まった。

旅行者数、支出額ともに着実な増加傾向を示しているわけだが、ベトナム観光産業をより活性化させる上で、「観光客1人当たりの支出額の増加」、「交通整備」、「悪質な客引きや詐欺行為の減少」、「情報提供チャネルの充実」がキーポイントとなりそうだ。